

## 関東甲信越支部長活動報告

2011年3月



支部長 上浪 寛

### 支部執行部からのメッセージ

東北関東大震災により被災された方々に、衷心よりお見舞い申し上げます。3月11日14時46分、マグニチュード9.0という日本最大の大震災により、東北地方、関東地方の沿岸部では大津波による未曾有の被害が起きました。2011.3.11という日を私たちは生涯忘れる事ができないでしょう。個人でできることはもとより、組織としての復興支援は持続可能な息の長い活動が求められます。JIAでは本部の災害対策委員会に情報を集約しながら全国レベルで支援活動を展開していきます。また震災当日からJIAには、世界中のUIA支部各国建築家協会から激励と支援の申し出が来ています。震災発生から半年後に開催されるUIA東京大会開催を危ぶむ声も聞かれますが、震災を乗り越えるためにもこの時期にUIA東京大会を開催し、世界中の建築家の声を社会に発信する意義があると考えます。大会開催に関しては今後の原子力発電所の状況やUIA本部のスタンス等、よく見極めながら判断して行くことになるでしょう。

### 支部長活動報告

- 2日 国土交通省から日弁連に依頼されている建築相談について、東京弁護士3会、青野建築相談委員長、山本首都圏建築相談委員長を交えて協議する。瑕疵担保履行法に伴う建築相談員について、現在9名いる相談員を15名程度の増員を依頼される。
- 4日 国際委員会 JICA-WG のミーティングを行う。UIA大会までに2回、大会時に1回の予定でJICAが求めるAfrican Eco-villageをテーマにワークショップ開催を予定する。JIA、JICAの人材、ノウハウ、コネクションを活用するために4月を目処に協定書を締結する予定。午後、支部役員会が開催される。支部組織再編案の承認、決算予算の協議、来年度支部活動方針などが協議された。
- 8日 UIA大会「2050年の建築家」シンポジウム実行委員会が開催される。第6回目は5月20日に予定された。テーマは資格制度。JIA会員資格でなく、約3万人と想定される建築家の資格制度を議論しようというものだ。
- 9日 会員種別WGが開催される。かねてから意見の出ていた「建築家」の定義については、会員規則第2条を引用することにする。
- 10日 組織再編諮問会議が開かれる。最近内閣府からの質疑応答に変化がある。

- かつては「事業」について具体的に述べることが要望されていたが、最近では事業を包括的に述べるように言われ、かなり現行定款に近い文言が正とされるようだ。ただし、現行定款にない、災害、福祉は定義が必要だ。
- 11日 14:46 三陸沖でM9.0という世界での観測史上第5番目という巨大地震が起こった。世田谷の事務所から JIA 事務局へ電話連絡するが電話が繋がらない。JIA 館が被災し、全員退去命令が出たというメールが来る。(翌週、安全が確認され使用開始された。) JIA に行くこともできず、菊池事務局長にも連絡が取れない。正確な情報が無く地震による被災の様子はよくわからないが翌日の地域サミット、保存大会をどうするか判断しなければならない。ほとんど電話は繋がらなかったが、午後6時になり近畿支部の橋本理事から、Web 会議を始めたから入って欲しいという電話が入る。Web 会議室で菊池事務局長が JIA に居ることがわかる。保存大会の準備を進めてきた栃木地域会の意向を確認して中止か否かを判断しようと思うが連絡が取れない。7時には地域サミットの中止を決めた。さらに栃木地域会との連絡を試みるが連絡がつかず8時には保存大会の中止を決めた。震度6以上の地震が起きたため自動的に緊急災害対策委員会が12日午前10時に開かれることになる。
- 12日 一夜明けて、大谷保存大会の中止を早く決めて良かったことがわかる。緊急災害対策委員会が開かれ JIA に委員が集まる。BCP(災害時の業務継続計画) [http://www.jia.or.jp/saigai/2011tohoku/main\\_frm.html](http://www.jia.or.jp/saigai/2011tohoku/main_frm.html)によれば、初動活動として3日以内に現地に入り現地対策本部を立ち上げることになっているが、この度の災害は広範囲に渡っているため現地入りの初動活動はせず本部にて情報収集することにする。災害情報掲示板としてフェイスブックを立ち上げる。 <http://www.facebook.com/jia.saigai> 震度6以上を被災した8県知事に対し、災害支援協力の申し出を送る。災害対策本部からの発信を JIA の HP に載せる。災害支援とは別に災害復興特別委員会の設立準備が提案された。他会、特に学会と連携しながら進めていくことになる。14日午前10時に再度委員会を開くことを決める。
- 14日 災害対策委員会が開かれ、電気の復旧した仙台の東北支部事務局に支部長、委員が集まり Web 会議に参加する。本部で会員の安否確認を進めている。東北、北関東でのガソリン入手が困難であるという報告がある。復興に関して専門家集団である JIA が提言をするため災害復興支援特別委員会設立を準備し、具体的に活動を始める事にする。次回委員会は22日午前10時の予定。夕刻、支部常任幹事会を招集し、被災地災害対策本部として常任幹事会が対応する事にする。15日に予定されていた JIA 群馬建築祭が中止となった。18日、24日に予定されていた資格制度委員会、本部評議会が中止となった。23日予定の支部交流大会が延期となった。

- 16日 前日の富士市地震(震度6強)を受けて緊急災害対策委員会が開かれる。東海支部からの報告によれば幸いなことにほとんど被害がない。
- 18日 新幹線が運転を始めたため、庫川災害対策委員長と一緒に栃木県庁(宇都宮)へ災害支援協力の申し出に行く。県建築課長からは、被災は農村に集中しており、全壊した建物は納屋など簡易な建物に多く見られ、住家の全壊は比較的少ない。罹災証明については落ち着いてから税務課で行う予定、とのこと。昼より宇都宮周辺は計画停電で信号も稼働していない。県庁を出た後、宇都宮近くで最も全壊建物の多い高根沢町を訪ねる。高根沢町では被害の大きい丘の上は遠いため行けなかったが、被害の少ない駅周辺の町を回る。大谷石積みの石蔵や塀が被害を受けていた。石蔵の一つは全壊して2階部分が全く崩壊している。いくつもの大きな石が現在住まわれている母屋の屋根に乗ったままで、いつ落ちてくるかわからない状態だ。栃木県で一番全壊が多い地域だが、人手が不足一週間経った18日でも応急危険度判定が全く行われていない。高根沢町役場の災害対策本部を訪問する。応急危険度については住民からの申し出に対応しており、多くの申し出を受けて県に応援を要請しているが未だ未実施とのこと。
- 22日 災害対策委員会が開かれる。世界中から支援の申し出がある。JIA 災害ファンドに世界中から受けられるようにする。今回の災害は広範囲に渡っており、限られた JIA のマンパワーを分散しないようにする必要がある。長期な支援になる事が予想され、持続可能な支援活動が求められる。午後、本部臨時理事会が開かれる。幸いなことに今回の災害で会員の人的被害は無かった。被災者の会費免除が検討される。東北支部で事務所ないし、住居が被災された方は4名。定款改定案はまだ不完全だが4月、5月の理事会を経て総会議決することになる。定款改定は会員総数の2/3の賛成票が求められている。5月本部総会出席者は100名程度であろうから、3,500票程度の委任状を集める必要がある。本部総会は予定通り5月31日に開催する。災害支援について海外含めて方々から問い合わせがあるが、JIAとしては専門家が災害活動するための JIA 災害ファンドへの支援をお願いし、被災地への直接的な資金提供については今まで通り日本赤十字社を紹介することにする。今後の継続的な災害支援活動のためにも、JIA 災害ファンドの充実を急ぐことが大切だ。
- 24日 国際委員会が開かれる。海外からの災害支援受け入れ態勢を確認する。災害に関する技術的説明を海外に対して行うため災害対策委員会と連携して進める。5月のAIA大会を前にAIAとのCPD相互認証、バナー交換等の課題を協議。AIA大会と東北支部総会が重なるが、芦原会長は東北支部総会出席を優先するため、会長代理者が出席する。
- 25日 組織再編諮問会議+定款改定WG+会員種別WGの合同会議が開かれる。4

- 月 11 日理事会のため、更に詰めた議論を行う。支部災害対策会議を支部常任幹事会で行う。墨田区、足立区で全壊建物が 54 件あるなど、都内での被害も大きい。多くの地域会がすでに行っているだろうが、今後 JIA が継続的に災害支援活動を行うため、応急危険度判定士のリストを JIA として纏めて各区に提出することで、行政との連携をより深めよう思う。各地機会へリスト作成を依頼する。災害対策委員会以外の委員会、部会で動いている活動の把握をするため、委員会、部会からの報告依頼をする。9時半頃、世田谷地域会へ合流する。
- 28 日 資格制度委員会が開かれる。東北支部は支部評議会が開けないため、本会で代行することにする。3月の更新者の登録を行うため、認定評議会を早急に開く必要があるが未だ調整中。
- 29 日 UIA 大会推進コア会議が開かれる。この状況下で大会を開くには今まで準備されてきたプログラムから大きく変えた大儀が必要で、規模の再検討も必要だ。ルーチンな大会ではなく、この非常事態を受けて災害に大きく焦点を絞った大会にすべきだろう。4月8、9日に開かれる UIA-JOB 調整会議で Cox 会長以下 UIA 理事との会議である程度方向が出ると思われる。UIA として世界の建築家が応援していることをアピールし、行動して欲しいと思う。北陸、四国の委員から 4月11日に開かれる理事会及び UIA 大会推進特別委員会の前日に全国支部長、全国推進委員とじっくり話をしようという提案が出る。当日は日曜日で JIA 館を利用できないため、芦原会長事務所で開催することにする。
- 31 日 東京都知事選立候補者へのアンケートを行っているが、有力候補者事務所へアンケート提出についてお願いに行く。

支部長活動報告 2011年3月

2011年3月31日作成 上浪 寛



「UIA 東京大会」

<http://www.uia2011tokyo.com/ja/>

「一万人の建築家展」

<http://www.10000architects.com/>